

農作物病害虫発生現況情報（6月） 水稻編

1 ばか苗病

(1) 6月中旬（6/13～22）の巡回調査（県内148地点）では、1圃場で発生が確認された（表1）。

表1 本田におけるばか苗発生状況

地域	調査圃場数	発生圃場数	(参考)	
			R4発生圃場数	R3発生圃場数
県中	56	0	1	4
県北	26	1	0	3
県南	54	0	2	5
遠野	12	0	0	1
全県	148	1	3	13

2 いもち病

(1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、発生は確認されていない（6月28日現在、接種日6月22日）。

(2) 6月上旬の調査では、県南部の複数地点において取置き苗での発病が確認された（令和5年6月5日発表病害虫防除速報No. 5を参照）。

(3) 6月中旬の巡回調査では、本田での発生は確認されなかった。

3 イネミズゾウムシ

(1) 基準圃場（北上市成田、無防除）では、5月第3半旬から第5半旬にかけて成虫数及び食害度の増加が見られた（図1）。

(2) 6月中旬の巡回調査（県内148地点）では、発生圃場率は29.7%（平年21.6%）で平年よりやや高かった（図2）。

(3) 地域別では、奥羽、岩手、胆江、一関、遠野、二戸地域で食害程度（中以上）が高かった（図3）。

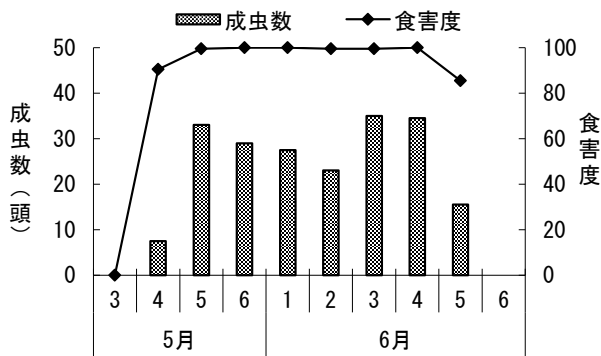


図1 基準圃場におけるイネミズゾウムシ成虫の発生消長と食害度

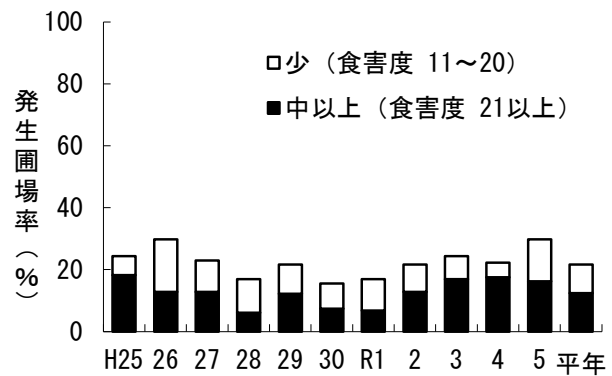


図2 イネミズゾウムシ発生圃場率の年次推移（6月中旬、食害度）

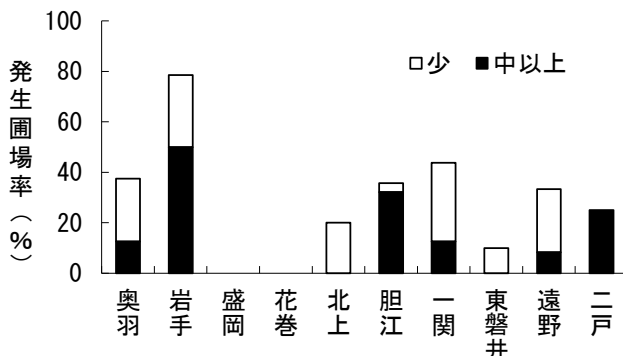


図3 地域別のイネミズゾウムシ発生圃場率（6月中旬、食害度）

4 イネドロオイムシ

(1) 6月中旬の巡回調査では、産卵圃場率は8.1% (平年3.6%) で平年より高かった (図4)。

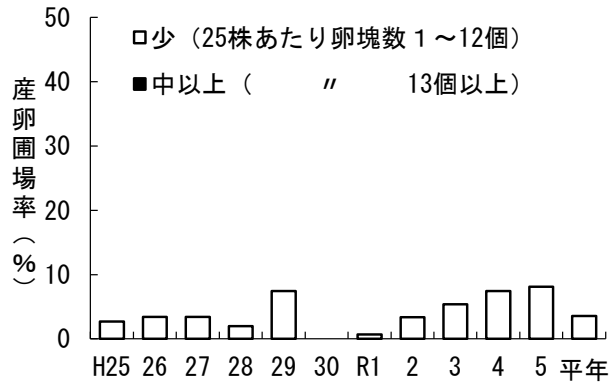


図4 イネドロオイムシ産卵圃場率の年次推移 (6月中旬、程度は25株当たり卵塊数)

5 斑点米カメムシ類

(1) 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) におけるすくい取り調査では、6月第2半旬からアカスジカスミカメ成虫の発生が確認された (図5)。

(2) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、斑点米カメムシ類の発生圃場率は41.0% (平年30.0%) で平年よりやや高かった (図6)。

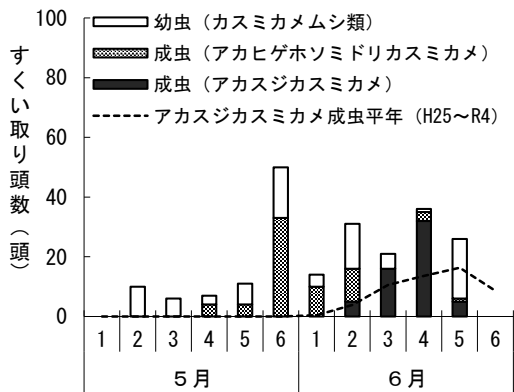


図5 基準圃場 (北上市成田、イタリアンライグラス) における斑点米カメムシ類発生活長 (往復20回振)

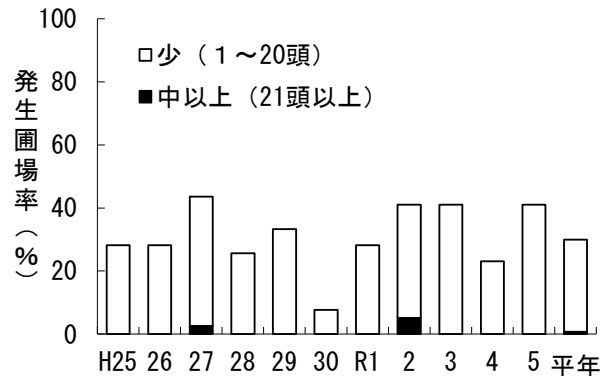


図6 斑点米カメムシ類発生圃場率の年次推移 (水田畦畔、往復20回振)

6 コバネイナゴ

(1) 6月中旬の水田畦畔すくい取り調査 (県内39地点) では、発生圃場率は64.1% (平年53.6%) で平年並であったが、発生程度中以上の圃場率は17.9% (平年7.2%) で平年より高かった (図7)。

7 フタオビコヤガ (イネアオムシ)

(1) 6月中旬の本田すくい取り調査 (県内39地点) では、発生圃場率は5.1% (平年2.1%) で平年よりやや高かった (図8)。

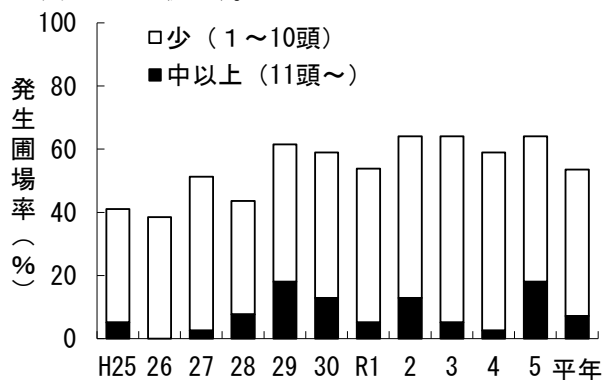


図7 コバネイナゴ発生圃場率の年次推移 (6月中旬、水田畦畔、往復20回振)

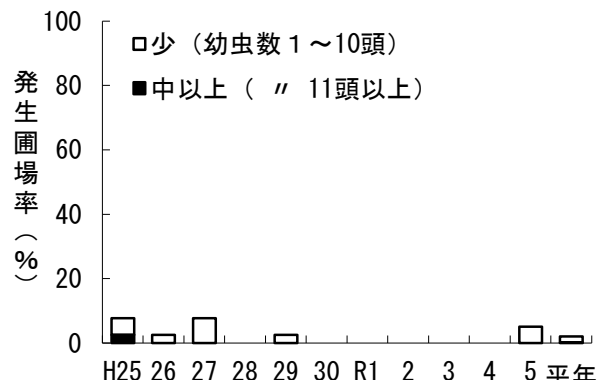


図8 フタオビコヤガ (イネアオムシ) 幼虫発生圃場率の年次推移 (6月中旬、本田、往復20回振)